

# 兵庫県立丹波医療センター 地域医療連携センターだより



**T M C**  
AMBA MEDICAL CENTER

Vol.26  
2025 12



〒669-3495 兵庫県丹波市氷上町石生 2002 番地 7 TEL:0795-88-5200(代表)

## 診療部紹介

### 循環器内科 内科 西尾 実

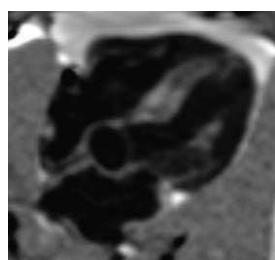
循環器内科は、心臓と血管の治療を担当しています。狭心症・心筋梗塞・心不全・弁膜症・心筋症・成人先天性心疾患・不整脈・大動脈瘤・大動脈解離・末梢血管の閉塞性疾患・肺塞栓症・下肢静脈血栓症などを専門としています。これらの疾患には、命に関わるものが多く 365 日 24 時間いつでも対応できる体制を整え、地域医療に貢献できるよう診療を続けております。



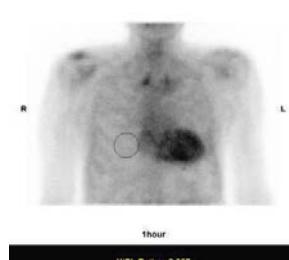
(2列目左から2番目西尾医師)

これまで急性心筋梗塞や心原性ショックに対してはカテーテル治療や ECMO（体外式膜型人工肺：いわゆる人工心肺）の挿入など救命行為に重きをおいて診療をしておりましたが、予後の改善により治療の質や治療後に継続する抗血小板薬による出血などの問題も懸念されるようになってきました。そのため最近では石灰化に対するローターブレーター やオービタルアテレクトミー (OAS)、粥状硬化病変に対する方向性冠動脈粥腫切除 (DCA) といったアテレクトミーデバイスも用いてカテーテル治療の質の向上を図っているほか、病状によってはステントを用いないカテーテル治療ができるよう体制を整えています。同様に四肢の閉塞性動脈硬化症や透析シャントのカテーテル治療も行うことが可能です。また、高齢化や医療の進歩に伴う疾病構造の変化により、現在は心不全の治療やその原因となる心筋症・弁膜症や不整脈の検査や治療がより重要となってきております。当院では心エコー図検査（経胸壁・経食道）を始めとして、心筋シンチグラフィや心臓 MRI 検査、心筋生検といった多角的な評価を各専門家の目を通して行い、治療可能な二次性心筋症や弁膜症などに適切な治療を行えるようにしています。弁膜症の手術や不整脈に対するアブレーションなど当院では対応困難な治療についても北播磨総合医療センター や神戸大学医学部附属病院を始めとして近隣の施設と緊密な連絡をとり対応させていただきます。診療ガイドラインの改訂やデバイスの進歩が目まぐるしく進んでいる中で最新の医療を提供できるようにしておりますのでこれからもよろしくお願ひいたします。

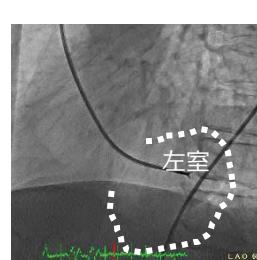
心臓MRI



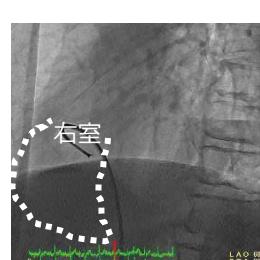
心筋シンチ(PYP)



左室生検



右室生検



# 第1回 市民公開講座を開催しました

県立丹波医療センターの第1回市民公開講座を11月15日に

丹波の森公苑多目的ホールで開催致しました。

テーマは骨粗しょう症で、上出將志整形外科医長、簗田拓磨放射線技師、石田香奈看護師、吉見真太朗薬剤師の4人が講演しました。105名の方にご参加いただき盛況な講演会となりました。準備や会場設営、当日の進行に奔走されたスタッフの方々に感謝致します。

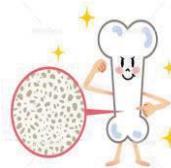


市民公開講座開催実行委員長 芝 昌彦副院長

## 「骨粗しょう症って何？」

骨粗しょう症は、骨の量（骨密度）が低下し、骨の中の構造がスカスカになる病気です。特に女性は閉経後に女性ホルモンが減ることで骨が弱くなりやすく、日本では40歳以上の約6人に1人が骨粗しょう症とされています。骨が折れやすい場所としては、背骨、太ももの付け根（大腿骨頸部）、手首などが多く、転倒をきっかけに寝たきりにつながることもあるため、予防がとても重要です。原因には加齢のほか、運動不足、カルシウムやビタミンD不足、喫煙、多量の飲酒、ステロイド内服などが関係します。

予防としては、乳製品や小魚、緑黄色野菜を意識して食べること、日光にあたることでビタミンDを作るこ



整形外科医師 上出 將志

と、そして散歩や筋力トレーニングなどの継続した運動が効果的です。また、骨密度健診を定期的に受け、自分の骨の状態を知ることが大切です。

「骨の健康は毎日の積み重ね」—コツコツ続けることが骨を守ります。

## 「骨粗しょう症予防のための運動と栄養について」

骨粗しょう症予防の基本として、「運動」「栄養」「日光」の3つが重要です。特に運動については、骨に過度な刺激を与える「骨に荷重がかかる運動」が骨量維持に効果的であり、ウォーキングや軽い筋力トレーニング、片足立ちなど家庭でも続けられる運動を紹介しました。栄養面では、カルシウム・ビタミンD・タンパク質をバランス良く摂取することが骨の形成と維持に欠かせません。どれか一つを積極的に摂取するのではなく、牛乳や小魚、キノコ類、魚介類など身近な食品を上手に取り入れて、バランス良く摂取してほしいと思います。今日からできること、家族と一緒にできることから始めて頂き、骨粗しょう症予防の知識が高まることを願っています。



看護師 骨粗しょう症認定マネージャー 石田 香奈



骨は私たちの身体の土台です。無理のない範囲で、毎日の生活に骨に良い習慣を取り入れ、年齢に負けない骨と一緒に守っていきましょう。

## 「骨粗しょう症のお薬について」

骨粗しょう症のお薬は様々なものがありますが、今回は代表的なお薬について説明させていただきました。特にビスホスホネート製剤（アレンドロン酸やリセドロン酸など）はよく使われるお薬になりますが、日常の中で注意しなければいけないことがたくさんあります。

外来の患者さんに関してはなかなかフォローができないため、このような機会を利用して少しでも注意点についてご理解いただければ幸いです。また、イベニティ®など、新しい薬もたくさん出てきているため、それぞれの特徴を理解した上で治療を受けていただければと思います。

お薬については、自己判断で中止することなく、服用を継続することが一番大切です。治療を途中でやめ



薬剤師 吉見 真太朗

てしまうと、せっかく良くなってきたものが全て台無しになってしまった・・ということも起こりかねません。患者さんに継続して薬を服用していただけるよう、薬剤師として力を尽くしていきます。服用していく体調に異変があるような場合は、我慢せず、医師やかかりつけ薬局、薬剤師へ相談してください。

薬だけでなく、適度な運動や食生活にもご注意ください。



## 「骨密度検査について」

骨は体を支え、臓器を守るという大きな役割を担っています。そのため、骨の強さ（**骨密度**）は健康的な生活を送るために重要な鍵であり、早期に検査を受け自身の骨の状態を把握することが重要です。**骨密度検査**は骨を構成するカルシウムなどのミネラル成分の量を数値化することで骨の強度を客観的に評価でき、特に骨粗しょう症の早期発見と予防に不可欠です。

骨密度検査には、様々な方法があり、現在、最も広く用いられているのが当センターでも行っている **DXA 法**です。この方法はエネルギーの異なる 2 種類の X 線を利用し、骨と軟部組織の吸収率の差から骨密度を測定します。測定は骨折リスクの高い**腰椎**や**大腿骨**で行います。これにより、高い精度を誇り、検査時間は約 5 分と短いことが特徴です。また、装置のベッドに仰向けに寝るだけで完了するので負担の少ない検査です。検査結果からは、骨密度、若年成人平均値 (YAM) に対する割合を示す **T スコア**や、同年代の平均値に対する割合を示す **Z スコア**などの指標が得られこれらの指標を総合的に評価することで、骨粗しょう



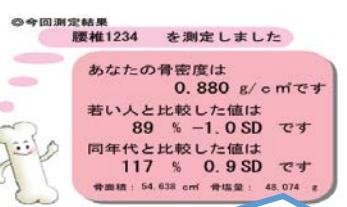
診療放射線技師 篠田 拓磨

症の診断などが可能になります。そして、この方法の利点の一つが被ばく線量の少なさです。1 回あたりの線量は約 0.001~0.01mSv と、胸部 X 線撮影のわずか 1/5~1/10 程度と極めて少なくなっています。

骨密度は加齢とともに低下していきます。そのため、定期的な検査を通じて、生涯にわたる骨の健康を守りましょう。



DXA 法



こんな風に結果が出ます！

検査部紹介

## 自動免疫染色装置(ベンチマーク ULTRA PLUS)導入しました！

病理検査は、患者さんから採取した組織や細胞を観察し、病気（腫瘍）の良悪性や進行度を調べる検査です。病理検査技師が作製した標本を、病理診断医が顕微鏡で組織の構造や細胞形態を観察し病理診断を行います。基本的な染色法（HE染色）に加え、診断をより確かなものにするために行う免疫染色は腫瘍の組織型診断、原発巣の特定、悪性度の判定、治療薬の適応判定などに重要な役割を果たします。今回、自動免疫染色装置『ベンチマーク ULTRA PLUS』を導入し、院内で実施できる免疫染色の項目が増えました。患者さんに正確かつ迅速な病理診断結果を届けることで、いち早く治療に結び付けられるよう日々努めています。

ベンチマーク ULTRA PLUS



NEW!

p16 (子宮頸部 扁平上皮癌)



茶色く染まっているのが癌細胞です。

## 糖尿病合併症の検査セットをご活用ください！

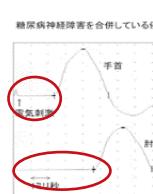
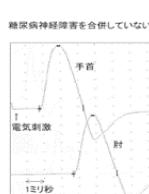
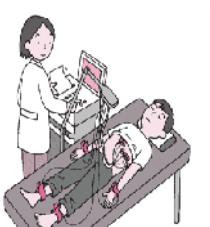
糖尿病があると動脈硬化が進みやすくなり、心筋梗塞や脳梗塞のリスクが健常者と比較して高くなります。また、脂肪肝や慢性肝障害の合併や、末梢神経障害を受けやすくなります。これら糖尿病合併症は自覚症状のないまま進行することがあり、定期的な検査が必要です。検査による早期発見と適切な治療により予防や、進行を抑制できる可能性があります。そこで丹波医療センターでは糖尿病合併症を早期発見するために有用である5つの検査（心電図、ABI/CAVI、頸動脈エコー、腹部エコー、神経伝導速度）のセット運用を開始しました。診療情報提供書（生理検査依頼書）にも新規項目として追加しております。地域医療連携センターを介して依頼されてはいかがでしょうか。

### 【オーダー方法】

丹波医療センターホームページより（医療関係の方へ→関連書類ダウンロード→診療情報提供書（生理検査依頼書）【様式4】）

上記書類の糖尿病合併症検査セットをチェックし必要事項を記載して  
地域医療連携センターにご送信ください。（＊2日に分けて検査を行います）

糖尿病が進むと  
刺激の伝わる時間が長くなります



## 第3回 オープンセミナーを開催しました

高齢者に注目されがちな地域医療の中で、近年、若者の自傷行為やオーバードーズ（薬物過剰摂取：O/D）が増加し、この丹波地域でも大きな問題となっています。

そこで、若者の市販薬のO/Dについて、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長であり、同センター薬物依存症センターセンター長を兼任されている松本俊彦先生を講師としてお迎えしました。松本先生は精神科医として長年、薬物依存症や自傷行為の研究・臨床に携わってこられ、依存症治療の第一人者として国内外で講演を行い、研究成果は学術界のみならず一般向けにも発信されています。『自傷行為の理解と援助』、『誰のために医師はいる』等の多数の著書もあり、依存症や自傷行為をめぐる「生きづらさ」への支援を社会に問いかけ続けておられます。

今回のご講演の中で、松本先生は若者の市販薬等のO/Dを「本人の意志の弱さ」ではなく、「生きづらさに耐え、生き延びるために適応行動」と捉える視点を提示されました。さらに、医療者や支援者に第一に求められるのは、『ダメ、ゼッタイ』という否定や禁止を乗り越えて、彼らの行為の両価性に共感し受容することであると訴えられました。そして、『相談』ではなく『雑談』のような何気ない日常の中で起こる本人の変化を焦らずに待つことを覚悟することが大切だと語られました。地域全体で若者の市販薬等のO/Dに対する正しい理解を共有し、適切な医療や支援を行っていこうと多くの参加者が強く感銘を受けたセミナーとなりました。



国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所  
薬物依存研究部部長 薬物依存症センター長  
兼任 松本 俊彦 先生



オンラインでの研修会開催となり、  
院外からも沢山の方々にご参加  
いただきました



地域医療を担う近隣の医療機関を紹介させていただくコーナーです。  
医療機関の特徴を知り、地域住民の皆様に良質かつ効率的で切れ目のない医療が  
提供できる連携を目指します！

### 医療機関

今号は、医療法人社団土筆記念厚生会 中野医院をご紹介します☆

11月14日に、丹波篠山市の中野医院を訪問し、理事長の中野翔平先生にお話を伺ってきました。中野翔平先生は昭和63年に篠山でお生まれになり、平成24年に信州大学を卒業されました。ご専門は泌尿器科だそうです。大学病院、京都桂病院泌尿器科で研修を終え、コロナ禍の中、2代目を継がれたそうです。今は理事長として中野医院は内科（放射線科）の医師に院長を任せ、皮膚科の医師にも来て貰って、自身は西脇市の分院ツクシクリニックの院長も兼任されています。内科、皮膚科、泌尿器科等の診療の上に透析も行っており、慢性腎臓病の重症化予防にも積極的に取り組まれているそうです。患者さんの住所や予想される治療内容によって丹波医療センターや三田市民病院に紹介するが多く、当院泌尿器科の経尿道的水蒸気治療(WAVE)には期待をしていますと仰っていました。「できるだけ楽しい生活を」送ってほしいと生活の質を落とさないよう支えていきたいと熱く語って頂きました。まだ若く、これから地域医療を担って活躍されることが期待される先生でした。

(芝 記)



## 外来診療担当表

診療科＼曜日		月	火	水	木	金	備考
内 科	一般、初診	藤井 康和 (消化器・肝臓・腎臓)	林 友鴻	見坂 恒明	森 寛行	見坂 恒明	◎ 二次精密検査は、一次健康診断結果ををご持参ください。
		京谷 萌	清水 健史	藤原 稔		平田 千尋	◎ 水曜 松本医師の診療時間第2・4・水曜は10:30まで
		第2・4 平田 千尋			切石 菜々美		◎ 西崎医師は予約診察のみ
	専門 (初診、再診)	河崎 悟 (循環器)	新倉 悠人 (循環器)	松本 賢亮 (循環器)	松本 賢亮 (循環器)	西尾 亮 (循環器)	◎ 宇野医師は予約診療のみ
		西崎 朗 (消化器)	星島 正彦 (循環器・腎不全)	佐藤 悠 (消化器)	西崎 朗 (消化器)	朝治 直紀 (消化器)	◎ 第3水曜 山中医師の診療時間14:00~16:30
		宇野 友哉 (消化器)	津田 一範 (消化器)				◎ 次回の看護予約のあった患者さんのみ
			山中勝弘 (第3、心臓血管)				◎ 他医療機関等からの紹介予約のみ ◎ 午後(再診のみ)
	予約再診	森 寛行		藤井 康和	藤井 康和	第1・3・5 田中 健雄	
	こころと記憶の診療科	射場 亜希子					
	呼吸器	奥野 恵子 (癆瘍)	奥野 恵子 第1・3・5 午後 桂田 直子			奥野 恵子	
	ベースメーク		第1・2・3・4 午後 河崎 悟				
専門 外来 (予約)	糖尿病		藤井 研己		澤部 史一		
					第4 14時~ 大橋 紳一郎		
	緩和ケア		板倉 崇泰		第1・3・5 田中 祐子	田中 祐子	◎ 緩和ケア：院内がん相談支援センターで予約された患者さんのみ
	がん治療支援	板倉 崇泰	午後 板倉 崇泰	板倉 崇泰	第2・4 板倉 崇泰	田中 祐子	
	脳神経内科	午前 武田 侑己	玉田 亮吾	大塚 喜久		大塚 喜久 (もの忘れ)	
	腫瘍・血液内科	午後 大塚 喜久					
	膠原病 リウマチ内科			薬師神 公和	水谷 優	水谷 優	
	肝臓					第1・3・5 上田 洋 第2・4 麦谷 道生	
	禁煙・睡眠 無呼吸・栄養					星島 正彦	
	1 診	徳元 翔一	市川 裕太	松本 泰右	市川 裕太	酒井 國安	
小 兒 科	2 診	湯浅 太陽	湯浅 太陽	藤川 陽介	藤川 陽介	松本 泰右	
	3 診	藤川 陽介				徳元 翔一	
	専門外来 (予約)	坊 亮輔 (内分泌)	徳元 翔一		藤川 陽介	市川 裕太	
		第1・3・5 徳元 翔一 (アレルギー疾患)	酒井 國安 (アレルギー疾患)		湯浅 太陽	松本 泰右	
		松本 泰右			市川 裕太		
		担当医 (予防接種)	担当医 (1ヶ月健診)	担当医 (乳児健診)			
外 科	一般・消化器	寺井 祥雄	担当医	藤田 恒憲	濱中 統親	藤田 敏忠	
		太田 里菜		折田 沙穂			
		第1・3・5 木戸 正浩 (肝臓)		第2・4 木戸 正浩 (肝臓)			
	乳腺外科	岸 淳彦		岸 淳彦		岸 淳彦	
整 形 外 科	上本 晴信	芝 昌彦	上本 晴信	芝 昌彦	芝 昌彦	芝 昌彦	◎ 金曜 芝医師は初診のみ ◎ 火曜 上本医師は予約診療のみ
	上出 將志	戸田 誠也	戸田 誠也	宇川 直也	上出 將志	戸田 誠也	
	上本 晴信				宇川 直也		
リハビリテーション科	上本 晴信	芝 昌彦	上本 晴信	芝 昌彦	芝 昌彦	芝 昌彦	◎ リハビリ訓練は、要予約
脳神経外科	第1・3・5 甲田 将章						◎ 月曜 斎藤医師は予約診療のみ 診療時間 11:30~14:00
	第2・4 藤本 陽介						◎ 水曜 子約診察のみ (救急対応要相談)
	斧渕 夏那						
皮膚科		武田 有生	村田 洋三	望月 亮佐	村田 洋三		◎ 受付時間 火曜 11:00まで
							◎ 受付時間 月~木曜 11:00まで 金曜 10:30まで
泌尿器科	岡本 雅之	岡本 雅之	岡本 雅之	山崎 隆文	兵頭 洋二		◎ 金曜 予約診療のみ
	1 診	丸尾 原義	望月 慎介	園田 あゆみ	望月 慎介	鈴木 美奈子	
	2 診	出口 雅士	中島 由貴	中島 由貴	六車 明日香		◎ 午後のみ 予約診療のみ
産婦人科	周 産 期		担当医		担当医		◎ 月曜 斎藤医師は予約診療のみ ◎ 診療開始時刻 斎藤医師・林医師 9:30~
	眼 科	9時30分~ 棚瀬 真希子 第1 午後 菅澤 淳	金光 聖隆 金子 景佑	第1・2・4・5 金光 聖隆 第3 菅澤 淳	金光 聖隆 金子 景佑	金光 聖隆 金子 景佑	◎ 林医師は予約診察のみ
				9時30分~ 林 一 午後		午後 林 一	
耳鼻咽喉科	午前	柿木 章伸	藤井 大智		柿木 章伸	第2・4 藤原 肇	◎ 受付時間 月~水, 金曜 11:00まで 木曜 10:30まで
	午後					第1・3・5 藤井 大智	◎ 月曜 柿木医師は予約診察のみ
放射線科	一般	楠 直明	楠 直明	楠 直明	楠 直明	楠 直明	◎ 予約診察のみ
	リニアック	小西 圭	小西 圭	小西 圭	小西 圭	小西 圭	
歯科口腔外科		川口 弘毅			梶原 彰文		
	竹内 純一郎	竹内 純一郎	竹内 純一郎	竹内 純一郎	竹内 純一郎	竹内 純一郎	◎ 予約診察のみ
	木畠 佑基	木畠 佑基	木畠 佑基	木畠 佑基	木畠 佑基	木畠 佑基	

◎ 受付は、午前8時30分~午前11時30分までです。原則的に予約診察を行っています。  
初診時に他の院の紹介状をお持ちでない場合は、選定療養費(医科:7,000円、歯科:5,000円)が必要になります。

## 入院される患者さんへ

## ～早期退院および早期転院等に関するご理解ご協力についてのお願い～

当センターは、丹波地域の中核病院として、県民の皆さんのが命と健康を守るために、救急医療をはじめ質の高い医療の提供を目指しています。

このため、できるだけ多くの方にご利用いただけるよう、病状が安定された入院患者さんにつきましては、救急入院患者のために早期退院や他の医療機関への転院をお願いしております。  
何卒ご理解、ご協力いただけますようお願いいたします。

